

### 316 虚血性心疾患における軽運動負荷 Tl-201 SPECTの一過性欠損像の臨床的意義

須田研一郎, 大西正孝, 森 孝夫, 加納康至,  
塩谷英之, 藤谷和大, 福崎 恒 (神大 一内)  
前田和美 (神戸医療技術短大)

虚血性心疾患(IHD)例の軽運動負荷(L-Ex)時Tl-201 SPECTにおける一過性欠損像(TD)の臨床的意義を明らかにすることを目的に, 最大運動負荷(M-Ex)時に明らかな一過性虚血が認められたIHD患者11例にL-Ex Tl-201 SPECTを施行した。L-ExはM-Ex時の最大心拍数の80%を目標心拍数として施行した。TDはM-Ex, L-Exいずれも全例に認められた。一方, M-Ex時胸痛は, 10/11, ST低下は10/11に認められたのに比しL-Ex時胸痛は5/11, ST低下は4/11にしか認められなかった。次にL-Ex時に認められたTD segmentとそれに対応するM-Ex時のTD segmentの正常部に対するinitial relative(IR)%を比較するとそれぞれ $62.8 \pm 14.5$ ,  $58.7 \pm 12.0$ と正常部に比し同程度の低下を認めた。またL-Ex時胸痛, ST低下いずれも認められなかった4例においてもTD segmentの正常部に対するIR%はL-Ex時 $55.9 \pm 15.3$ , M-Ex時 $54.2 \pm 10.7$ といずれも同程度の低下を認めた。以上の結果よりL-Ex時に認められたTDは胸痛, 心電図変化に先行する一過性虚血の有用な指標であることが示唆された。

### 317 心筋TlのSPECTによる心拡大の評価の有用性に関する検討

伊藤正光, 田中健, 中村喜孝, 牧泰(都立豊島病院)  
大塚 達, 西川潤一, 飯尾正宏, (東大放)

従来, SPECTにより心疾患を評価する場合, 欠損等で病態を把握する機会が多いが, 心拡大による評価はそれほど指摘されていない。われわれは, 虚血性心疾患, 肥大型心筋症, うっ血型心筋症の患者の, 心プールよりの駆出率(E.F.), 20Tl-SPECTよりの内腔の大きさ, 壁厚, 及び心カテーテルよりの左室容積を求め, 比較し検討を行った。E.F.については, 30%以下, 30~50%, 50%以上の3段階に分け, 拡大の指標SCOREとの比較を行った。内腔が大きくなるほどE.F.は低下する負の相関がみられたが, 内腔が拡大する群においても, 欠損があって拡大するものと, 欠損がなく拡大する2つのtypeがあり, 重症度等を判定するのに, 欠損だけでなく拡大についても十分考慮する必要があると思われた。壁厚とE.F.との比較では壁厚がうすくなり, これに伴ってE.F.の低下がみられた。以上のように, SPECTによる心疾患の評価では, 欠損のみならず心拡大も重要な指標であると考えられた。